



二俣川小だより

4月号

～笑顔いっぱい 友達いっぱい～

横浜市立二俣川小学校 令和5年4月7日



創立150周年

新たなスタート、ツクシのようにすくすくとたくましく

校長 泉 太郎

暖かな春の日差しの中、新たに1年生86名を迎え、令和5年度がスタートしました。保護者の皆様、お子さんのご入学・ご進級おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大も落ち着き、この4月より学校においてもマスクの着用が求められなくなりました。しかし、大人はその場の状況により自分で判断しながらマスクの着脱ができますが、子どもたちにとっては自分でマスクの着脱の判断をするのは難しいと考えます。この3年間マスク着用の生活を続けてきた子どもたちにとって、マスクを外すという行為自体が特別なことになっているとも考えられます。学校では教職員が、ご家庭では保護者の皆様が、子どもたちに声をかけ、少しずつ無理なくマスクを外していくことができればよいと考えます。風邪症状や花粉症等でマスクが必要な子ども、マスク生活に慣れたことで、すぐに外すことが難しい子どもたちもいます。その子どもたちにも十分配慮しながら学校生活を進めていきたいと思ひます。

先日、自宅から最寄りの駅まで歩いているとき、途中の公園でツクシを見つけました。数年ぶり、いや十数年ぶりくらいでしょうか。子どもたちは自然にたくさん生えていて、自分では食べもしないのにたくさん摘んで帰り親に怒られた思い出があります。懐かしく思わずスマホで撮ってしまいました。ツクシはスギナの胞子茎で3月ごろから南向きの土手などに、他の植物に先駆けて生えることから、春の到来を感じさせる植物の一つと言われています。そのかわいらしい姿に加え、地下茎をしっかりと伸ばし生命力が強いことから、小さいながらもすくすくと元気に育ってほしいという願いを込め、子どもたちをツクシにたとえられることが多いです。本物と同じように最近ではあまり見かけなくなりましたが、1年生の学年・学級だよりのタイトルになることもありました。新型コロナウイルス感染症は、5月8日からは感染症法上の5類感染症に位置づけられます。学校では、季節性インフルエンザと同様に基本的な予防に気を付けながら、子どもたちと教育活動に取り組みます。教室や校庭に子どもたちが制限なくより活発に活動する姿、より多くの友達と交流する姿が戻ってくることを期待しています。二俣川小学校の子どもたちもツクシのように、すくすくとたくましく育ってほしいと思ひます。



この3年間のコロナ禍の中で、社会でも家庭でもそして学校でも、だれもがかってない経験をしてきたことは決してマイナスなことばかりではありません。教育活動においても、今まで当たり前のように取り組んできたことを「本当に必要なのか、大切なのか」と見直すよい機会にもなりました。また、教員不足や長時間労働など昨今の課題についても「持続可能な」という視点でも今後さらに見直していく必要もあると感じています。令和5年度のスタートです。今年度は創立150周年を迎え、さらに校舎建替工事も始まります。目まぐるしい一年となりそうですが、私たち教職員は、より力強く、そして、子どもたちに寄り添いながら、保護者の皆様、地域の皆様と共に、二俣川小学校を「笑顔いっぱい 友達いっぱい」の学校にしていきたいと思ひます。

ご入学・ご進級おめでとうございます。

令和5年度、よろしくお願ひいたします。

横浜市立二俣川小学校 教職員一同



